



幸せな贈り物

神様は 科学者？

ホン・ジンギ創造人賞科学部門受賞者ホン・ビョンヒ教授 5月3日、故(維民)ホン・ジンギ前中央日報会長の業績をたたえるために制定された、第1回ホン・ジンギ創造人賞授賞式が行われました。科学部門、社会部門、文化部門に分けられて進行されたこの日の授賞式で、科学部門に21世紀の夢の新素材と呼ばれている「グラフェン(graphene)」の応用に必要な源泉技術で世界最高だと認められているホン・ビョンヒ、ソングンクァン大学化学科教授が受賞しました。ホン・ビョンヒ教授は「私の父と先輩が現代化と産業化を成し遂げたおかげで、今日の私たちが創意的な研究ができるようになった」として「この賞を『創意的な任務を遂行しなさい』という意味をこめた任命状だと思う」と思いを明らかにしました。彼は、自分の人生を振り返りながら、こういうあかしを告白しました。

私には夢がありました。長いトンネルをすぎて着いた霧が深くたれこめたまっすぐな道。両側には一抱えほどもある木が列になって、影をつくっていて、その隙間からまばゆい日差しが額を暖かく照らし…。こういう風景の絵をたくさん描いたりしました。小学校3年の時から、父が続けて事業に失敗して始まった私たちの家族の不幸、暗い現実の中で、私を支えたのは夢であつたし、私は勉強がそれを成し遂げてくれると心から信じていました。そのように後ろを振り返らないで、自らを鞭打って、いよいよ望んでいた大学に進学して、私はそれが長いトンネルの終わりだと思ったのですが、それ以後にも父の失敗は続きました。それ以後に続く苦痛、絶望…。私は本当に知りたかつたのです。なぜ私にこのようなことが起きるのか。教会で、だれよりもさらに献身して祈っていた母が、なぜそのように苦労するのか…



そのような私にひとりの人が現れました。息が詰まりそうだった私の状況に、その人は私にたましいの安息所のようなものでした。そのように頼りながら、お互いの夢を育てていきました。願っていることがとても多かったので、失望も大きかつたのでしょうか。結局、私たちは別れて、突然、私を支えてきたすべてが一度に崩れ落ち始めました。私の人生は、結局、このままトンネルの中で終わってしまうのかという絶望感が押し寄せてきました。夜になっても、目を閉じることができませんでした。このように訪れてきた不眠症とうつ病は、何週間も私を困らせました。その苦しみから抜け出すために、あらゆる方法をみな使ってみました。私のたましいは、ますます疲れはてて行きました。どのようにすれば、この苦しみから抜け出せるのだろうか。私の人生が終われば苦しきも終わるだろう…。幼いころから私を導いてきたと信じたイエス様は、その瞬間どこにもおられなかつたのです。アパート10階に上がりました。遥かな下を見下ろしながら、ずっと問い続けました。はたしてこれが私の終わりなのか、本当に他の道はないことなのか…。その瞬間、私を引き返すようにさせたのは、死に対する恐れであつたか、そうでなければ、夢に対する未練であつたかもしれません。幸い、私は後ろを向いて、切迫した心情で礼拝に参加して切実に祈りました。「神様!あまりにも大

変です。苦しいのです。ここから抜け出させてください」

切実に求める祈りの後、驚くべき変化が私に訪れてきました。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです」(マタイの福音書 11:28-30)私の何とも関係がない、一方的な神様の恵みでした。突然、すべての状況で神様のみことばを正しく信じて頼れなかった私が、まさに罪人だという気がしました。心より罪人であることを告白した瞬間、真の福音とイエス・キリストの真の意味が悟れるようになりました。イエス様の十字架事件が、まさに私のための事件であったということがはじめて信じられて、また、私を追い詰めて路地へ押しやっていた霊的な存在があったことも知るようになりました。

「神様、私は神様を否定してうらんだ罪人です。イエス様が、この私のために十字架で血を流して死んでくださったことを信じます。イエス・キリストの復活の力で私とともにいて下さい。私を苦しめた暗やみの勢力を取り去ってください。私を導いてください」

その日、私は生まれてはじめて、最も安らかに長く寝ることができました。目覚めてみたら、日差しいっぱい朝でした。幼いころから、ずっと夢見ていた絵の中の風景が目の前に広がっていました。数トンの重さのように感じられた周囲の全てのものが、突然、感謝だと思えるようになりました。昨日と今日、変わったことは何もなかったのに。その方が私と本当にもとおられるということを悟ったこと一つ以外には...とてもうれしかったのです。私の最も大きいうらみの対象だった父に、まず最初に走り行きました。「お父さん、神様が生きておられることを分かりますか？」すると、父は深刻に話しました。「神様が生きておられるなら、我が家がこのようにほろびたろうか」あきれました。19年間、教会に通っていた執事の口から出た言葉です。父の事業が失敗しなかったならば、そのように一生、生きていたかも知れません。「お父さん、ありがとう。お父さんでなかったら、私と私たちの家族は永遠にこの祝福を知らなかったでしょう。まさに神様が生きておられるから、私たちがほろびたのです」お父さんは、あきれたというように鼻でせせら笑ったのですが、すぐ真剣に私の話を聞き始めました。その日、私た

ち家族四人は、一つの部屋に並んで横になって、長い長い恵みと感謝の夜を明かしました。後日、父は、その日、私が言ったことばに感動を受けて、イエス様を受け入れるようになったと言いました。今は、だれよりもみことばを慕って、福音を伝える本物の執事になっているので、私には紅海が分かれたことよりも、太陽と月が止まったことよりも、もっと大きい奇跡でした。

その後、学業が私にとってどんな意味なのかも知るようになりました。イエスがキリストだという事実を私自身の救いと個人の問題の解決という枠だけで見ていた私に、学業は信仰と別の問題でした。勉強をがんばって成功すれば、社会的地位と経済力を得て、それを通して伝道しなければならないという程度の考えはしていたのですが、私の学業自体が贅美であり、味わうことができるという事実は、悟ることができませんでした。私にとって、学業は耐えて戦って克服しなければならない対象でした。だから、学業に対する負担感が激しくて、そこから抜け出てくることができない時が多かったのです。ある日、そのすべての万物を直接創造して治める方が、今、私の中に私とともにおられるという事実が新しく悟れるようになり、私の技能・学業を含んだ周囲のあらゆる事物を、もう一度見るようになりました。私の専攻である化学という学問も、神様が創造されたことで、神様の神聖と力がかくされており、これを通して主がほめたたえられることを望んでおられるということを悟りました。その時から、祈ったのは「化学が私に味わうことになるようにしてください。創造主の神様の知恵を私にもください。私の全てのものを通して主をほめたたえることを願います」私に答えが来はじめました。すべてのノーベル賞の受賞者をみな合わせたよりもはるかに優れた知識と知恵を持たれた神様が私の中に私とともにおられるということが実際的に信じられた瞬間、私の頭と努力だけを頼って成し遂げられるのは、きわめて小さいことだということを悟るようになりました。私の弱さを主に告白して、知恵を求める祈りをするようになりました。主は、やはり世の中で最も優れた化学者で、私の学業に味わいきれないほどの大きい答えの門を開けてくださいました。私の生活の極めて小さいことまでも主が治めておられ、それらを通してほめたたえられることを願っておられることが分かりました。その方が、今日、私をこの場にまで立つようにされました。私を愛して答えられた神様は、みなさんを愛して答えたいと願っておられます。この神様の愛と祝福をみなさんとともに分かちあえればうれしいです。

私にくださるみことば

イエス欠乏障害(JDD:Jesus Deficit Disorder) アメリカで最も影響力あるクリスチャン 8位に上がったキリスト教未来学者レナード・スイート(63、ドゥルー神学大学大学院教授)が、4月に韓国を訪れました。彼は「今日、教会がイエス欠乏障害という深刻な病気を抱えている」話しました。彼は「教会がキリスト以外のことでとても変質した。アメリカ教会の集会や会議に参加しても、聖書やイエス、聖霊についての話を聞くことは難しい」と告白しました。それとともに彼は「キリスト教でイエスが抜ければ、自ら死ぬことだ(Christianity minus Jesus is suicide)。それなのに、多くの教会と教会指導者が、今でもそのような自殺ビジネスに参加している」と指摘しました。そして、宣教と伝道は神様がすでにされることで、私たちがすることは参加することだと話しました。ところで、現実のクリスチャンはそれを尊重しません。

今、韓国教会はたくさんあるのに、なぜ教会の信徒は良くならないのでしょうか。大きく2つのためにだめなのですが、一つは規律(レベル)であり、もう一つは福音(イエス・キリスト)です。福音と規律が均衡がとれるように、重職者が手助けしなければなりません。そして、皆さんを通して、どのようにするのが信仰生活を良くすることなのかを伝えられなければなりません。信仰生活を良くするという事は、行く歩みごとに神の国を味わうことです。神様は、昔から今まで目に見えないように、みことばで働いておられます。イエスはキリストとして来られたので、私たちはその御名で証拠を見るようになります。祈るようになれば、必ず聖霊が働かれるようになっていきます。みなさんの背景が天国だから、後ほど天国に行くのですが、生きている間に神様は天の軍勢と御使いを送って答えを成し遂げていきます。この地にいる間に、暗やみに勝てる権威を私たちに与えられたのです。これを神の国と言います。これを分かるように手助けしなければならないのです。何よりも、皆さんがメッセージを聞く時、神様が私にくださるみことばを握らなければなりません。これを持って六日間、考えて実践してみるのです。そうすれば、みなさんが握ったメッセージが、ただ一つも抜けずに、時間が過ぎればつながって答えがくるようになります。みなさんを通して、こういう祝福が伝えられなければなりません。祈りの中で成就したみことばの答えを持って、その祝福とともに味わうように手助けする所が地教会です。

神様の子どもになる受け入れの祈り 愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決して下さったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもへの五つの確信

- 1 **救いの確信**：イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、Iヨハネ 5:10~13)
- 2 **祈り答えの確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 **導きの確信**：神様は聖霊で私の中におられ、私のすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)
- 4 **赦しの確信**：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 **勝利の確信**：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、Iヨハネ 5:4)

神様の子どもへの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

キリスト

あなたのすべての問題を終わらせた方



イラスト_ユン・スルギ

ジョン・バンヤンは「天路歷程」という本を苦しみの中で神様に会うことによって書くようになった。この本の主題は、結局、すべてのものは将来にほろびる町のようなことだ。それで「ほろびの町」という代表的な単語を使って、はやく福音を宣べ伝えなさいということがこの本の主題である。

この本のように、神様に会うことができない人間は、理由も知らずに苦しんでいる。それで、霊肉ともに罪の中から抜け出すことができなくて、結局、本当の礼拝の対象を見つけられずにさまよっているのだ。神様に会うことができない人間の実存を調べたら、より一層気が焦るようになるしかないだろう。悪魔の奴隷となって、迷信と偶像に陥るようになり、占い、おはらい、善行をし、だめになる。吉日を選んで、方角と墓の場所まで気をつかっても、思いどおりにはできない悪魔に縛られた人生だ。

そうしていると、精神と心が苦しめられるようになって、いつも不安で、不平を言いながら、不満に捕われるようになる。したがって、ストレス、ノイローゼ、不眠症、うつ病など、おかしな問題に引っかかるようになって、より一層、心と精神は苦しむようになる。

ただの一度も真の安らぎがない人生を生きるのも、肉体にまで、その悪影響が行くしかないだろう。それで、肉体もまた少しずつ不治の病、うつ、悪夢、金縛りに苦しめられるようになって、病名はないのに全身は押さえられてずっと死の中を歩いて行くしかない人生になる。より一層、残念なのは、こういう苦しみがその人の代で終わればまだ良いのだが、こういう問題の原因が、神様に会うことができない霊的な問題なので、その霊的な遺産は子孫にもそのまま伝えられる。生きている間、あくせく努力して集めたいくらかの財産だけ譲るのではなく、自分自身も知らないうちに苦しめられた霊的な問題まで、そのまま伝えられるのだ。このように、地獄のような人生を送って死んだ後は、結局、地獄に転落する

のが未信者の実存である。こういう状態から、どんなに善行をして、自らの救いと解答に向かったもがきをしても、根本問題である神様を離れたことを解決することはできないのだ。それなら、こういう未信者の実存のために、神様がくださった唯一の解答は何なのか。

神様は、人間の根本的な問題、すなわち死と悪魔の権威の下で罪を犯して生きなければならない人間の実存問題を簡単に解決された。この問題は、神様が直接、処理される。なぜなら、悪魔の権威に勝つ人はいないためだ。神様が直接の人となって来られ、十字架と復活の権威によってサタンをうち破られた。この方が、まさにイエス・キリストだ。神様は、みことばが人となって、私たちの中でご自身に会える唯一の解答になるようにされた。

聖書は、イエス様を信じるその瞬間に、悪魔の手から救いに達するようになることを教えている。イエス様を受け入れれば、直ちに身分が変化して、サタンの権威から解放される。合わせて、死の権威と地獄から解放される。イエス様を受け入れれば、神様の子どもになる。それで、聖霊がいつもともにおられ、すべての人生を導かれる。分かろうが分かるまいが、救われたその瞬間から、聖霊が同行される。そして、その時から、祈れば答えられる鍵を受けようになる。合わせて、サタンに勝てる神様の子どももまた与えられる。そして、神様は天の御使いを送って、神様の奥義を成し遂げることもされる。この世に生きている間、絶対に揺れないように天の市民の保証もまた与えられるようになる。これが、聖書が話す唯一の解答「福音」である。

*相談したい方はこちらまでどうぞ